

Robotics Report

新たな常識のはじまり

成否を分けるサービスロボット その境界線は・・・

nikko am
fund academy



将来のロボティクス産業をけん引するとみられるサービスロボット。昨今、新たな製品やサービスが次々と世に送り出されています。しかし、AI(人工知能)スピーカーやロボット掃除機のように、ブームを超えて確固とした地位を築いたカテゴリーがある一方で、普及の途上にあるカテゴリーもあります。今回は、その成否を分ける境界線を探ります。

■ サービスロボットで成功するタイプ・・・

米国では1/3以上の消費者が保有し、ショッピングや調べものなどに利用されている「AIスピーカー」。米調査会社のGlobal Market Insightsは、世界市場規模について、17年の45億米ドル(約4,950億円*)から24年には300億米ドル(約3兆3,000億円*)に達し、18～24年で年平均約33%成長すると予測しています。この市場規模は、18年の日本メーカーの産業用ロボット年間受注額の約3倍に当たります。
*1米ドル=110円

中国で毎年11月の「独身の日」にアリババなどが行なうEC(電子商取引)セールなどの報道で紹介されていた「倉庫用ロボット」も、成長が期待されています。海外のロボットメーカー幹部やEC関係者らは、東南アジアなどの人口増が見込まれる地域の流通業で、需要が増えるとみているようです。また開発現場では、数百から数千台の同ロボットを効率的に制御するAIシステムの開発も進められており、各国の大手企業の参入も相次いでいます。

また、公共スペースで人々の利便性を高めることを目的とした警備や案内、通訳などを行なうロボットの実証試験や実用化が進んでおり、無人店舗や飲食店向け配膳ロボット、店舗運営用AIシステムを組み込んだ店舗なども増えているようです。

このように、成功するタイプは、目的が明確で、利用者のニーズに対応し、一定の作業に特化したカテゴリーのロボットに多くみられるようです。



※写真はイメージです

■ 目的特化型のサービスロボットが有利！？

サービスロボットの中で、普及にしばらく時間がかかりそうなのが、人間の話や感情などを理解して行動する汎用ロボットです。これは、H.I.S.ホテルホールディングスが運営する「変なホテル」におけるロボットの「リストラ」や、ソフトバンクのロボット「Pepper」のレンタル契約を更新する企業が15%にとどまったと報じられたように、当初、



※写真はイメージです

ロボットに人間のアバターのような役割を期待していたものの、人間による対応が必要な場面が減らないなど、現時点で求められていた技術レベルに達していないことが要因にあるようです。一方、目的特化型ロボットの需要は増えつつあります。例えば、「うつ病」のカウンセリングや、体が不自由な人の表情を認識して対話するAI搭載のチャットボットは、ユーザー数が着実に増えており、技術開発も進んでいるようです。

このように、サービスロボットの成否を分ける“境界線”は、大まかに、ロボット導入で労働コストが低下するか否かや、精度が高いのか低いのか、といった点に集約されそうです。とはいえ、サービスロボットのカテゴリー毎に、需要と技術レベルのバランス検証の結果は着実に蓄積されていますので、これらを活かすことで「成功するタイプのサービスロボット」のカテゴリーは徐々に増えていくと期待されます。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

(当レポートは、株式会社ロボティアの情報をもとに日興アセットマネジメントが作成しています。)

■当資料は、日興アセットマネジメントがロボティクスに関する情報についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。